

平成29年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	一人ひとりの生徒の学力向上を図り、進学力の高い学校を目指す
本年度の重点目標	1 言葉に強い生徒の育成に努める 2 授業の工夫と改善に努め、生徒が意欲的に学習に取り組めるように心掛ける 3 挨拶や礼儀をはじめとする基本的生活習慣と思いやりの心の育成に努める 4 生徒の学力と教養の育成に努め、希望の進路実現を図る 5 より快適な環境づくりに努める 6 募集定員確保及び質の高い生徒の獲得を目指す 7 学校運営の改善・向上に努める

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 23 日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
1	全生徒の学力を向上させるためにあらゆる学問の基礎である 言語能力を高めることを 全校をあげて取り組む	言葉に強い 生徒の育成	・ 検定対策講義を「言葉の時間」として週1時間、国語・英語の授業へそれぞれ組み込み実施 ・ 日本語検定、英語検定を全員受検 3年間で目標の級に到達するように指導を徹底 ・ 入学前より新入生に日本語・英語の各入門テキストを課題として配布 ・ 毎週漢字・英単語テストを実施 ・ 外部講師を招き、言葉を学ぶ意欲を喚起する講演会を実施	・ 検定合格者数 ・ 学ぶ意欲を喚起する講演会が実施出来たか感想文で確認	・ 日本語検定は準1級に1名、2級に3名、準2級に9名、3級に45名合格し、3年生の準3級以上取得率は47.7% ・ 英語検定は2級に17名、準2級に47名、3級に163名合格した 3年生の3級以上取得率は53%であった 全校生徒の英検級取得率は82%である ・ 言葉を学ぶ大切さについて日本語検定協会より検定審議委員の松藤展和氏をお招きして「床もUP?! 日本語もUP?! すべての仕事は『プレゼン』である」の題目で生徒の学ぶ意欲喚起に努めた	A	・ 3年間で個々の目標とする級に一人でも多く到達するように指導を徹底する ・ 検定対策の授業を一層充実させる ・ 今後も意欲喚起に繋がる講演会を企画する ・ 講演会後も継続して教員から言葉を意識するように発信する
2	特別選抜コース 特別進学コースⅠ 特別進学コースⅡ 進学コース それぞれのコースに適した授業法を開発して授業力を向上させる	授業法の改善	・ 入学前後の学習指導の充実 到達度テストの実施(3月) テストの事後指導を3日間実施し、最終日に総復習用のテキストを課題として配布(3月) 課題の確認テスト(スタディサポート)を実施(4月) ・ 朝食を摂らせる指導 ・ 自学の習慣を身に付けさせる指導(1日1年1時間、2年2時間、3年3時間を目標とする) ・ 能動的授業の研究・導入(言語活動の充実) 対話型授業 協調学習法 アクティブ・ラーニング ・ 研究授業の実施 ・ 教員研修会の実施 ・ ICT教育の研究 ・ 公開授業の実施 ・ 教員自己評価の実施 ・ 生徒からの授業評価の実施	・ 意欲が向上し、家庭での自学が定着したか ・ 教員が授業力向上に努めているかアンケートを実施 ・ 生徒が授業に満足しているかアンケートを実施 ・ コース毎のデータを基に伸長を確認	・ 合格手続き後に宿題を課して継続的学習を促し、3月21日入学予定者に到達度テストを実施して宿題の結果を確認した ・ 到達度テストの結果と入学試験の結果とを合わせてクラス編成を行った ・ 3月26～28日に到達度テストを基に入学前トータルビュー(総復習)を実施して、入学後の学習方法や心構えを指導した ・ 授業公開や研究授業、外部への研修会への参加に加え、教員が自己を評価する教員自己評価アンケートや生徒が授業を評価する授業評価アンケートを基に授業力向上のための研究が行われた ・ 対話型授業の導入で生徒の積極的な授業への参加、学力定着に努めた ・ 文部科学省より紹介されているアクティブ・ラーニングの手法について教員間で授業を公開して各教科研究に努めた ・ ICT教具を授業に活かす工夫が始まった ・ 家庭学習の充実のためベネッセのクラッシーを導入し、活用方法に関する教員研修を行った	B	・ 新入生に対して早い時期に入学後の準備を行わせて不安を払拭する ・ 授業力向上に向けての教科研究会を継続して行う ・ 対話型授業、協調学習、アクティブ・ラーニングを活用して生徒参加型の授業を研究する ・ ICT教具の導入に伴い、各教科で活用方法の研究を一層行う ・ ベネッセのクラッシーの活用を本格化する
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					実施日:平成30年2月24日		
					・ 日本語検定も英語検定も各級の取得率が徐々に上がっており、今後に期待したい ・ 講演会は一過性のものであり、継続した指導をお願いしたい		
					・ 入学前からの指導は入学前後の不安を払拭できるのでありがたい ・ 新入生の受け入れ準備で大変だが在校生の補習・補講もお願いしたい ・ 家庭学習が身に付くようにと様々な工夫をしてもらい嬉しく思う ・ クラッシーの試験的实施から早い段階での全面実施をお願いしたい		

3	校訓の「創造」・「自律」・「親切」をより具現化するため、目指すべき生徒像を ・「熱き心」を持ち ・「品位とけじめ」のある ・「あいさつ」のできる 生徒と設定し、指導を徹底する	生活指導の充実	・生徒を指導する際の言動に留意 ・挨拶の指導を徹底(特に来校者への挨拶) ・道徳教育を継続して指導(思いやりの心を育む指導) ・人権教育を継続して指導 ・登下校時の安全・マナー指導の徹底 ・家庭と連携を図り、生徒指導を徹底	・生徒および保護者が生活習慣の向上を実感しているか ・教師と生徒と保護者の信頼関係が築けているか ・学校に寄せられる苦情の件数や内容の確認	・ホームルームや学年集会を通して基本的生活習慣や人権についての指導を行った ・校訓や目指す生徒像の標語をもとに元気に挨拶の出来るように指導した ・家庭との連携を心掛け、生徒の育成に努めた ・携帯電話(SNS)の使用マナーについて外部講師を招いて指導を行った ・公共機関でのマナーの徹底	B	・人権教育を一過性にせず継続的に指導を行う ・挨拶は教員自らが積極的に行い、お手本となる ・SNSに関する諸問題が大きな問題に発展しないよう日頃からの指導を徹底する ・一部の生徒の指導を徹底する	・頭髪や服装で乱れた生徒を見かけたことがない ・SNSの問題は良く耳にするので気をつけて欲しい ・挨拶は明るく爽やかに行っていると思うが語尾までしっかり発音して欲しい ・薬物犯罪について本校は関係ないではなくしっかり指導していて安心である
4	生徒個々の進路目標を実現するため、補講・補習を一層充実し、より 学力の高い学校を目標 とするよう指導する	進路指導の充実	・通年補講、補習の拡充 ・二者面談によるモチベーションの維持 ・夏期休業中サマーセミナー(1・2年)、センター合宿(3年)の充実 ・センター試験で得点率70%を目標とする ・進路指導室からの情報発信の拡充 ・各種ガイダンス・講演会を通して具体的な進路指導の実施 ・模擬試験を各コースの特性に合わせて実施し、きめ細かな事後指導を徹底 ・安易な学校選びからの脱却 ・国家・地方公務員試験対策指導の充実	・希望進路が実現できた生徒が100%に近づいたか ・補講や補習が充実していたか ・昨年度の進路実績を上回ることができたか	・センター入試利用者が180名であった ・模擬テストの結果を分析して、きめ細かな指導に役立てた ・通年補講や補習の拡充を図った ・サマーセミナーやセンター合宿の内容を検討してより効果の高い手法を研究し、来年度の合宿に備える ・城西大学と連携して進路目標を設定するための模擬講義を行った ・進路の日をより具体化して、1年は職業調べ2年生は進路目標設定に役立つ企画を立案して実施した	B	・模擬試験はコースの特性に合わせたものを実施し、事後指導を充実させる ・サマーセミナーやセンター合宿での成果を検証し、より効果の高い手法を確立する ・保護者を巻き込める進路の日を来年度企画する	・補習・補講は先生方の負担を増やしているが、親としてはありがたい ・生徒個々の進路希望実現に向けて細やかな指導に感謝する ・保護者に届く情報が少ないように思う
5	学習環境の改善に取り組み、 情操教育を充実 させ、校内の環境づくりに努める	更なる環境づくり	・図書館の環境整備 ・校内美化に努める ・第3学年全員に茶道教室、歌舞伎教室の実施 ・情操教育としてヒロ・ヤマガタの版画を校内に展示 ・情操教育として日本文学者24人の色紙を校内に展示	・生徒および保護者の校内環境への満足度をアンケートで確認 ・本校の教育環境に関して来校者の評価を聞き取る	・図書館の蔵書の整理・増書を行い、日々生徒の利用率を向上させた ・情操教育の一環として行った版画や色紙の掲示している ・全面人工芝の第一グラウンドがサッカー部以外に体育の授業や昼休みに生徒が活用している	A	・図書館の充実として調べ学習が行えるようにPC等の整備を行う ・校内の美化意識を高める指導を行う	・美化意識は育っていると思う ・トイレが改装されて生徒達が喜んで使用していると聞いている
6	生徒募集活動を活発に展開し、 質の高い生徒の入学 を目指す	意欲のある生徒を募集	・全教員で塾、中学校訪問を実施 ・募集用のポスターを工夫し、電車や駅構内での広告活動を積極的に展開 ・説明会や相談会を通して広報活動に力を注ぐ ・中学校の講演会へ講師派遣 ・スクールバスのコース増設	・受験者数の拡大と入学者数の分析 ・過去年度の入学者の地域や特徴を分析	・全教員で塾や中学校を訪問し、本校の教育活動を広めた ・広報活動を積極的に展開して本校の知名度を上げた ・中学校からの講演依頼(模擬授業含む)を受け、本校の周知に努めた	B	・少子化、厳しい経済状況下での募集に対し、継続して本校をPRして行く ・中学校や塾の要望を来年度の募集に役立てる	・教員全員で挨拶回りをして先生方の熱意を感じる ・入学して良かったと回答する生徒や保護者が多い中、宣伝に一工夫してみては如何かと考える
7	教員一人ひとりの適性を活かした 組織づくり を行い、 明るい職場環境 を目指す	組織の円滑な運営	・ハラスメントに関する見識を高める ・新人の採用を順次行う ・職員室を整理整頓し、明るく会話のし易い環境をつくる	・機能しているか	・校長より教職員へ「ハラスメント」に注意するよう訓示がなされた ・新任教員の研修を継続して行う ・ハラスメントに関して教員研修を行った	B	・教員個々が更なる資質向上に努める ・生徒への接し方について研修会を今後も継続して企画する	・生徒の人権を守る意識を先生方が高く持っていることに安心感がある